

2023年9月29日

電源開発株式会社 代表取締役社長 渡部 肇史 様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水晃、上村雄一、本田進

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927

TEL:080-3999-9928 FAX:0968-72-5604

E-MAIL: tsuchi\_tk@yahoo.co.jp

### 瀬戸石ダム問題に関する貴社交渉に向けた質問書

当会の8月7日付け「豪雨災害時の瀬戸石ダムの問題に関する交渉の申し入れ書」に対して、貴社から8月18日付で「貴会からの申し入れ書に対する回答について」という文書が届き、条件付きながら、当会との交渉に応じる旨の回答が記してありました。当会からは8月23日に、貴社との交渉に関して、貴社指定の日時、場所、その他の条件を受け入れる旨のメールを、貴社西日本支店福岡事務所・伊藤安晋福岡事務所所長に送りました。貴社からは9月25日付で、交渉日候補、場所、交渉時間、参加人数を指定する「貴会との面談候補日等についてのご連絡について」という文書が届きました。この文書に対しては、別途回答いたします。限られた交渉時間を有効に活用するため、当会は事前に貴社に質問を提出し、貴社からの回答を受け、交渉時にその回答に対する質疑を行いたく、下記の通り質問書を提出します。10月13日（金）までに文書にて回答されますようお願いいたします。

#### 記

1.貴社はホームページで「ゲートを全開すれば、自然河川に近い状態となる」という説明をしているが、球磨川の瀬戸石ダム地点のダム建設前の川幅は139.3mであるのに対し、ダムの流下可能幅は75m（15×5）なので、ダム建設前の川幅の54%に絞っていることになる。

また、河川の深さについては、従来の水深22mに対し、15mにしているので68%としていることになる。

従来の河積（河川の横断面において、水の占める面積）3,036m<sup>2</sup>（138m×22m）を現河積1,125m<sup>2</sup>（75m×15m）に絞り込んだことになり、阻害率は63%になる。以上、ダムができた後のダム地点の球磨川は自然河川の状態とは程遠い。

貴社は同様に「流入量に等しい放流をしている」「ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められない」と説明しているが、それは設計洪水流量6,000m<sup>3</sup>/秒以下の流量での前提であり、2020年7月4日の洪水では、ゲートから洪水を流下させることができず、ダムの上流の水位の上昇を引き起こしている。結果として、ダムを越流して、右岸側の国道を2.0m冠水させている。

ダムがなかった場合、当会が行ったシミュレーション計算において、最大約

6. 8 mの水位が低下した。瀬戸石ダムが堰上げをおこなっていることは明らかである。

貴社はこれらの件に関して、どう考えているか。

2. 瀬戸石ダムは河川管理者である国土交通省から許可を受けた工作物であるが、水利権及び河川占用許可に関しては、治水上の障害となっていないことが、許可の条件である。このことは河川管理施設等構造令第36条にも「構造の原則」として示されている。

しかし、河川管理施設等構造令に示された径間長40 mに対し、瀬戸石ダムの径間長は15 mしか確保されていない。貴社は、この件に関し何らかの改善策を用意しているのか。

また、国交省が関与した河川砂防技術基準においては、ダムに対し「余水吐」を設置して、想定を超える流量を流下させることとなっているが、瀬戸石ダムには余水吐がないため、今回の洪水では左右岸の道路を冠水させた。貴社はこの件に関し、何らかの改善策を用意しているのか。

3. 球磨川水系河川整備計画において、横石地点の計画流量は8,200 m<sup>3</sup>/秒であるが、瀬戸石ダム地点に換算すれば、 $8,200 \times 1,629 / 1,856 = 7,197$  m<sup>3</sup>/秒となり（横石地点流域面積=1,856 km<sup>2</sup>、瀬戸石ダム地点流域面積=1,629 km<sup>2</sup>）これは瀬戸石ダムの設計洪水量6,000 m<sup>3</sup>/秒を1,197 m<sup>3</sup>/秒（14%）超える。つまり、国は瀬戸石ダムを治水計画上の障害物として、計画を進めようとしている。このような事実を貴社はどのように捉えているのか。

#### 4. 事業としての採算について

瀬戸石ダムによる発電収益は年間1億2千万円と推測されているが、その一方で、河床の堆積土砂の撤去費用は年間3億円を超えられると思われる。このような赤字事業を貴社は継続できるのか。反対に事業の採算を優先して堆積土砂を撤去しないことになれば、地域に水害を引き起こすこととなる。事業の採算と治水上の安全を考慮して廃業を選択すべきではないのか。

#### 5. 環境影響について

瀬戸石ダム湖の濁度が増したことで、特に下流の鮎の棲息と繁殖が困難となっている。また、下流の八代海が濁化することで、アサリなどの魚介類が死滅あるいは減少した。河川が濁ったことで、八代海の藻場が減り、そのことで魚類が減少した。

瀬戸石ダムが、このような球磨川の河川環境に悪い影響を与え、八代海の魚介類の減少をもたらしたことを貴社はどのように認識しているのか。

#### 6. 水害の補償について

貴社は過去の水害時にダム上流の住民に対して、「補償金」を支払った事実が明らかになっている。今回の水害で被災者に対して、補償しなかったのは事実か。また事実であれば、それはいかなる理由によるものか。

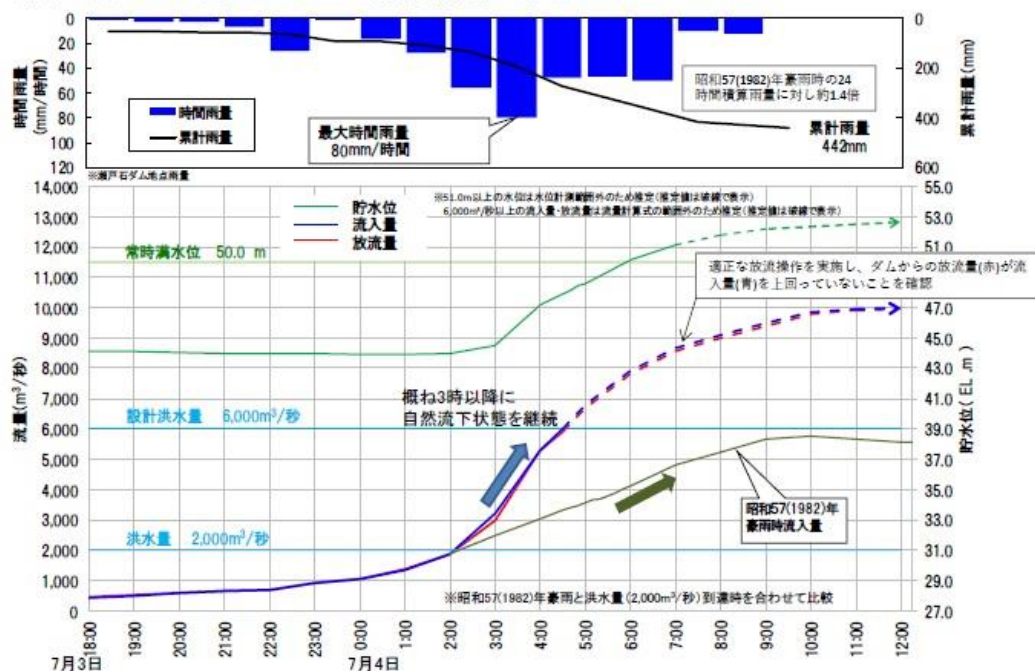
\*以下の質問7, 8, 9は貴社・瀬戸石ダムホームページ

([https://www.jpowers.co.jp/bs/renewable\\_energy/hydro/seto/index.html](https://www.jpowers.co.jp/bs/renewable_energy/hydro/seto/index.html))に掲載してある2020年7月4日の豪雨災害時の瀬戸石ダムの状況に関する「瀬戸石ダム・発電所の状況について」(2021年2月19日付)という文書・資料に関するものである。

7.本文1.(2)「ダム放流操作」の項で「今回の豪雨では、過去に経験したことがない大規模かつ急激な流入がダム地点で観測されました。これに対して適正な放流操作を実施し、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認いたしました」として資料3の「放流操作の状況」、資料4の出水時の写真を掲載している。

瀬戸石ダム 7月3日～4日 放流操作の状況

資料3



・昭和57(1982)年豪雨時流入量に比較し、大規模かつ急激な水の流入が見られます。  
・概ね3時以降は自然流下状態(水面より洪水吐ゲート下端が離れ、流入水をそのまま流下させる状態)となり、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認いたしました。【資料4左上写真参照】  
・ピーク流量は約10,000m³/秒、そのピーク時刻は上下流測水所(大野、横石)※データより11時から12時の間と考えられます。  
※大野及び横石測水所のデータは令和2年7月豪雨検証委員会資料(九州地方整備局、熊本県)より推定

資料3のグラフでは貯水位は上昇しダム頂である51mを2mもオーバーして53mにまで達している。同じグラフでは放流量と流入量はほぼ同じ値で推移しているが、ではなぜ貯水位が上昇したのか。流入量が放流能力を超えていたためにオーバーフローしたのは明らかではないか。

8.本文1.(3)「豪雨時の流量推定」の項で「今回豪雨時の瀬戸石ダム地点におけるピーク流量は、当社による洪水痕跡調査の結果などから、約10,000m³/秒と推定しております(※2)。ピーク流量時において、ダム下流の狭窄部からダム地点までに水位が徐々に上昇したことを確認いたしました。また、ダム地点においても水位上昇は確認されましたが、ダムの影響により水位が大きく上昇した事実は認められませんでした」としているが、資料3のグラフから明らかのように、午前3時から午前8時の間に44mから52mまでいっきに上昇している。

また設計洪水量は $6,000\text{m}^3/\text{秒}$ なのに、当時のピーク流量は $10,000\text{m}^3/\text{秒}$ であったことから当然自然流下などできなかったことは明らかである。貴社はこのことをどう考えているのか。

9.資料3の脚注に「概ね3時以降は自然流下状態（水面より洪水吐ゲート下端が離れ、流入水をそのまま流下させる状態）となり、ダムからの放流量が流入量を上回っていないことを確認いたしました。【資料4左上写真参照】」とある。

資料4

2020年7月4日3:30頃  
ダム下流より撮影

瀬戸石ダム下流 自然流下状態

瀬戸石ダム 出水時の写真

【出水ピーク頃】

瀬戸石ダム

球磨村

狭窄部(28k537\*) 距離 約300m

ダム地点(28k880\*)

芦北町

100m

©Airbus DS/Spot Image 2020

※距離標 (球磨川本川/河口からの距離)

7/4 10:41頃 SPOT7衛星写真

2020年7月4日9:42頃 ダム左岸 (芦北町側) 上方より撮影

瀬戸石ダム上下流の状況

- ・ゲート下端が水面より離れ、流入水がそのままダムを流下する自然流下状態となっています。(左上写真)【資料3関連】
- ・ダム上下流の水位は、右岸(球磨村側)道路敷高との比較により同程度と考えられます。(左下写真)【資料3、5関連】
- ・出水ピーク時には、ダム周辺構造物の浸水状況から、上下流の水位は同程度と考えられます。(右写真)【資料3、5関連】

しかし、この自然流下状態と言っている写真は、あくまで午前3時30分頃に撮影したものであり、その頃の流量は資料3のグラフによれば $4,000\text{m}^3/\text{秒}$ 位であり、その後ピーク流量は $10,000\text{m}^3/\text{秒}$ まで上昇している。だから、これを以て「3時以降自然流下状態であり放流量が流入量を上まわっていないことを確認」したなど言えるはずがない。このことを貴社はどう説明するのか。

以上